

日本映画と日本の文化伝統

にほんえいが にほん ぶんか でんとどう

佐藤 忠男
さとう ただお

以前よく、日本映画に関心を持っている外国人たちから、日本の映画監督たちの中では誰がいちばん日本的で、誰が西洋的なのかと聞かれた。溝口健二と小津安二郎と黒澤明では、主題も方法もスタイルもまるで違う。伝統的な要素はどこにあるのだ、ということである。なかには黒澤明は西洋的なのだと考えている人も少なくない。

私はいつも、この三人はそれぞれに伝統と深いかわりがある、と答える。一口に日本の伝統と言っても、じつは非常に多様なものがあるのだとまず分かってもらわなければならない。たとえば黒澤明の映画の多くは侍のものの考え方や行動の仕方の伝統をよく表現していると見えるだろう。責任感や勇気や力強さなどの表現は武士道に直結している。これに対して溝口健二の映画の多くは江戸時代の町人階級の文化に直結している。すなわち、優美さと人間観察の辛辣さの共存である。小津安二郎が足場としているのは近代小市民層の文化感覚である。ハイカラさ、おだやかさ、知的な誠実さ、などである。

日本文化という単一の伝統があるのではなくて、実際はその中には階層ごとに多様な違った伝統が成り立っている。たとえば農民的伝統というものも大きな流れとしてあって重要だ。律儀さ、実直さ、ねばり強さ、田坂具隆や新藤兼人がこの伝統に深く根差した映画監督だと思ふ。しかし現実には近代において農村は大きく変化し、農民の多くが都会に出てきて都市の下層社会を形成した。新藤兼人は彼自身、没落した富農の息子で都会に出て撮影所の下積み肉体労働を経験した人だが、正統的な農民気質を描いた映画を作るいっぽう、そうした都市流民とも言うべき層の生き方もよく描いた。そこにもまた独自の伝統的なスタイルがある。

今村昌平は東京の知識層の家庭の出身なのに、そういう農村出身の都市流民に強い関心を持って、もっぱらその、なりふりかまわぬ生活のあり方を描いている。しかしこうなるともう、世界のどこでも共通で、日本の伝統ということはあまり関係がない。大島渚が描く日本人も世界の共通の現代人と言えるだろう。こうして近頃は、誰の映画がいちばん伝統的なものなのか、という質問はあまりされなくなつた。

(映画評論家)
えいが ひょうろんか

表紙エッセイ

日本映画と日本の文化伝統

佐藤忠男 (映画評論家)

Essay

Japanese Movie and Japanese "Cultural Tradition"

Tadashi Sato (Film Critic)

読者から

From Our Readers

教育実践レポート⑬チーム・ティーチング

チーム・ティーチング

技術通訳・翻訳者の養成を目指して

洞野綾子・中畑浩枝

(モンゴル国立技術大学外国語学部日本語学科講師(青年海外協力隊員))

Japanese Language Teaching Around the World ⑬Team Teaching

An Attempt at Training Technical Interpreters

Ayako Dono, Hiroe Nakahata (Lecturer, Japanese Department, Institute of Foreign Languages, Mongolian Technical University (Japan Overseas Cooperation Volunteers))

国際交流基金日本語国際センター設立10周年記念国際シンポジウム

「日本語は役に立つか?」～国際語としての日本語の可能性を探る～

記念講演「日本語と私」

ドナルド・キーン (コロンビア大学名誉教授)

International Symposium Celebrating the 10th Anniversary of the Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa

"Is Japanese Useful?"

The Possibility of Japanese as an Intercultural Language

Keynote Speech by Dr. Donald Keene (Professor Emeritus, Columbia University)

中・上級 新聞・雑誌から見る現代日本

第4回 遺伝子組み換え食品

本コーナーは著作権の関係でホームページへの掲載ができません。

Intermediate and advanced Aspect of Japan Today in the Newspaper and Magazine

Genetically Modified Food

(This article is prohibited to appear on the web sight by copyright holder.)

初・中級 写真で見る日本人の生活

着物

Beginning and intermediate Japanese Life As Seen in Photographs

Kimono (Japanese Traditional Cloth)

日本語・日本語教育を研究する

第12回 日本語教育のための文法研究

野田尚史 (大阪府立大学教授)

Research on the Japanese Language & the Japanese Language Education

Grammatical Research for Japanese Language Education

Hisashi Noda (Professor, Osaka Prefecture University)

初・中級 授業のヒント

テープ教材の使い方(その2)

Beginning and intermediate Ideas for Japanese-Language Classrooms

Way to Use Audio Tapes Part 2

本ばこ (新刊教材・図書紹介)

Book Shelf : Introduction of New Titles

海外日本語教育Q&A

Overseas Japanese-Language Education Q&A

ニュース・編集部から

Miscellaneous News・From the Editors

* 日本語教育機関調査の結果報告は、都合により次号とさせていただきます。

マークは、読者が教えている生徒のレベルを示します。

mark indicates the level of students whom readers are teaching

読者から

ナマステ

1999年10月に初めて、第35号の「日本語教育通信」を受取りました。当アショカ日本語学院の全教師が喜んでおり、全員より感謝を申し上げます。日本語教育を発展させるためや、日本文化、習慣などを知るために、また諸外国の日本語教師のご意見など、身にしみて感じるものがあり、本当にありがとうございました。

現在、当学院で約35人が日本語を学んでいます。期間は1年間で、教材として絵本を利用したり、カセットテープを聞かせながら教えております。授業時間は毎日1時間、4つのグループに分け、4人の教師が指導しております。

ネパールで歴史的な町として知られているバクタプール市は、有名な観光地になっており、日本人観光客もたくさん訪れてくださいます。そのお客様方に、バクタプールの

歴史や文化、習慣をよりよく知っていただくために、日本語を話せる人たちの数を増やす必要があると信じております。このように考えて、この町に1校しかない日本語学院の発展に努力を続けております。これからも、色々と教えていただきますよう、よろしく願い申し上げます。

(ネパール アショカ日本語学院校長

バサンタ・ラトナ・バジュラチャルエ)

●お手紙は編集部で要約・編集して掲載しました。

表紙エッセイプロフィール

佐藤忠男(さとう ただお)

映画評論家。'56年に最初の映画評論集を刊行。近年は、特にアジア映画の評論を行い、その普及に貢献する。'89年川喜多賞、'96年紫綬褒章受章。'96年に日本映画学校校長に就任。著書は「日本映画史」をはじめ多数。

チーム・ティーチング 技術通訳・翻訳者の養成を目指して

モンゴル モンゴル国立技術大学外国語学部日本語学科講師(青年海外協力隊員)

洞野綾子・中畑浩枝

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している機関の教師の方々に、現場のコースデザインやコース運営の状況について、紹介していただきます。



日本語の授業を受ける学生

1 はじめに

モンゴルでは、1990年の民主化以前、外国語教育といえばロシア語であったが、民主化以降、英語、ドイツ語、日本語などの教育もさかんに became. モンゴルでの日本語の人気は高く、現在日本語を教える教育機関も増えてきている。「日本語教師会」もでき、大学、小・中学校、その他の日本語教育機関20校あまりの日本語教師が集まって、定期的にセミナーなどを行っている。

2 コースの概要と目的

モンゴル国立技術大学では、1996年9月から日本語教育が開始された。モンゴル語 - 日本語の「技術通訳・翻訳者養成コース」としてスタートしたもので、今年で4年目となり、6月に初めての卒業生を送り出す予定である。現在日本語学科には、専攻生のみ110名の学生が在籍しており、学生は日本語のほか、コンピューターなどの技術科目や、数学、幾何学、物理などの理系科目もあわせて受講している。

近年、モンゴルと日本の交流が盛んになるにつれ、観光客をはじめ、研究者、技術者、ビジネスマンなど、たくさんの日本人がモンゴルを訪れるようになった。モンゴルに住み、仕事をしている日本人も少なくない。このように交流の機会が増えるにしたがって、当然、モンゴル語 - 日本語の通訳・翻訳者が必要になってくるのだが、現在のところ、通訳・翻訳者としての実力を持つ人材は、非常に少ないと言っていいだろう。特に、技術通訳者は、まったく不足しており、技術通訳・翻訳者を育てようという「技術通訳・翻訳者養成コース」の試みは、今のモンゴルの需要に合ったものだと言える。しかし、それは、私たち教師にとってやりがいがあると同時に、たいへん難しい試みでもある。一般的な日本語以外に、どのように技術の専門用語を教えるか、どうやって通訳・翻訳ができる力を身につけさせるか、常に考えさせられている。

3 モンゴル人教師と日本語教師の役割分担

1999年9月から、モンゴル国立技術大学では、科目選択制を取り入れた。このため日本語学科では、これまで

の必修科目の他に選択科目として、技術日本語、日本語情、日本史などの科目が加わった。カリキュラム・使用教材については、表1・2のとおりである。

現在、日本語学科の授業は、全部で1週間に49コマ（1コマ=90分）あり、3人のモンゴル人教師と2人の日本人教師とで分担している。「文法」の授業と、2年生までの「翻訳」の授業をモンゴル人教師が、「会話」の授業を日本人教師が受け持っている。そして、3年生後期からの「文法」と、3年生からの「翻訳」、また、選択科目である「技術日本語」の授業は、モンゴル人教師と日本人教師がチームを組んで受け持っている。

今回は、モンゴル人教師と日本人教師と一緒に教室に入って授業を行う、3年生からの「翻訳」と「技術日本語」（選択科目）について、触れてみようと思う。



「技術日本語」チーム・ティーチングの様子

4 チーム・ティーチング

(1) 「翻訳」での試み

「翻訳」の授業では、3年生からは、自作の教材を使用している。自作の教材を使う理由は、ひとつには、モンゴルの事情に合ったものを教材とすることである。教材のテーマは、できるだけ実用性の高いものや、機会さえあればすぐにでもモンゴルで使えるようなものを選ぶ方針にしている。もうひとつの理由は、語彙や表現を、ただランダムに増やすのではなく、体系づけてまとめるためである。というのは、今のモンゴルの状況を考えると、よい辞書の入手はたいへん難しく、学生たちが将来、技術通訳や翻訳の仕事をする時には、膨大な数の専門用語を自分で集めて、まとめることが必要になってくると思われるからである。学習した専門用語を、実際に使う力を身につけることも、この授業の目標である。

教材作りや授業は、たいいてい次のように行っている。

まず、教材は、モンゴル人教師に助言してもらいながら、日本人教師が日本語で作成する。例えば、「観光ガイドをする」「論文を書く」「公式の場で話す」など、場面や状況によって変わることばづかいに焦点を置いたり、

表1 授業内容と1週間あたりのコマ数

(1コマ=90分)

	前期16週(9月~)	後期16週(2月~)
1年生必修	文法 3 会話 3	文法 3 会話 3
2年生必修	文法 3 会話 3	文法 3 翻訳 2 会話 3
3年生必修	文法 3 翻訳 3 会話 2	文法 3 翻訳 3 会話 2
4年生必修	文法 3 翻訳 3	文法 3 翻訳 3
選択科目 (変更あり)	技術日本語 3	技術日本語 3 日本史 3 日本事情 3

1~3年生は、上記のコマ数×2クラス、4年生は1クラス。

表2 主な使用教材

	文 法	翻 訳	会 話
1 年 生	『新日本語の基礎 I・II』(スリーエーネットワーク) 『新日本語の基礎 漢字練習帳 I・II』(スリーエーネットワーク)		各種テープ教材 自作教材
2 年 生	『中級J301』(スリーエーネットワーク) 『文化中級日本語 I』(凡人社)	『科学でゲーム』	各種テープ教材 自作教材
3 年 生	『文化中級日本語 II』(凡人社) 自作教材	自作教材	『待遇表現』 (The Japan Times)
4 年 生	自作教材	自作教材	
選 択 科 目	技術日本語・・・自作教材 日本史・・・自作教材 日本事情・・・『日本事情入門』(アルク)		

「動植物」「博物館」「交通」「気候」「地形」など、テーマごとに語彙や表現をまとめていく形をとったりしている。できた教材から、今度はモンゴル人教師が、日本人教師と相談しながら、一番適当なモンゴル語訳を見つける。

教壇には、主としてモンゴル人教師が立つが、授業の進め方や方法については、両方の意見を合わせておく。教室では、日本語からモンゴル語へ、モンゴル語から日本語への翻訳、また、通訳の練習なども取り入れている。こうした授業は、日本語のネイティブ教師とモンゴル語のネイティブ教師の両者がいなくてはできないものだ。両者が、お互いの文化を少しなりとも知っているということも、大きな利点になっている。

(2) 「技術日本語」への取り組み

今年度の9月から始めた「技術日本語」の授業は、ある程度基礎的な日本語学習が終わった3、4年生を対象に、選択科目という形で行っている。当日本語学科では、以前、理工系の教科書を使って日本語を教えるという試みもなされたことがあった。しかし、そういった教科書のほとんどが、物理や化学といった、直接実用にはならない教養的なものであったり、専門の研究を進めたい人たちのために書かれたものであった。技術通訳をする場合、必ずしもそういった理科の教科書的な日本語が必要ではなく、機械、部品の名前といったもののほうが必要になってくるのではないかと私たち教師は考えた。そこで、専門の技術者から技術用語を取材して教えていこうというのが、現在の「技術日本語」の方針である。

授業の準備段階から流れを説明すると、例えば自動車についての授業をする場合、まず、日本人の技術者から、自動車についての技術用語や各部品の名前、そしてそれがどのように動いているかなどのしくみを日本語で取材する。それを日本人日本語教師と技術者とで協力してテキスト・資料といった形にまとめ、それをモンゴル人教師が読んでモンゴル語の技術用語を調べ、授業にのぞむ。学生は授業で、日本語のテキストを読みながら、内容を把握していく。その際、日本語からモンゴル語に通訳する場合を考えて、技術用語は丁寧に訳していく。日本語の文法や会話を習う場合は、必ずしもそれを正確に本国語に訳する必要はないが、技術通訳が目的のこの授業においては、この、語彙を訳すという作業が非常に大切になってくる。一般に耳慣れない、難しい技術の場合は、概要をモンゴル語で説明し、その後日本語のテキストに入るということも必要になる。

この授業は、将来的にはモンゴル人教師がひとりで教える予定だが(注)、現在のところは、日本人技術者が使う日本語を取材する、そして、それをモンゴル語に訳していく、という作業が必要のため、チーム・ティーチングでなければ進められない授業である。そのため、日本人教師とモンゴル人教師の打ち合わせの時間も必要となり、非常に手間のかかる授業となっている。

これだけの手間をかけても、技術についてほんのさわりだけしか教えることができない、様々な分野の技術を教えても、将来学生がどの程度実際に使うものなのかわからない、モンゴルにいる日本人技術者が限られるため分野ごとに体系だてた授業ができない、などのさまざまな悩みを抱えながら授業を進めているが、最終的にはこの授業が、学生たちにとって、もっと深く専門の授業について学んでいくきっかけ、手助けになれば、と考えている。

5 チーム・ティーチングを試みて

上に紹介した2つの授業は、技術通訳・翻訳者を養成するという目的に最も近いものだとと言える。しかし、モンゴル人教師と日本人教師がチームで授業を作ることの欠点は打ち合わせにたいへんな時間がかかることである。さらに、モンゴル人教師と日本人教師の授業運営についての意見ががみ合わないこともあり、調整に手間取ることもある。

一方利点は、モンゴル語と日本語両方のネイティブ教師がいるため、翻訳のチェックが正確にできること、単に辞書的な訳ではなく、文化的な背景を踏まえた生きた翻訳ができることである。通訳の練習をする時は特に、両者が揃っていることで、学生たちのやる気も、安心感も増しているように思われる。

私たちはいつも、学生が日本語を使って仕事をすることを頭において、授業を行っているが、実際に通訳・翻訳者として仕事ができる者は、ほんの一握りである。しかし、少しでも多くの学生たちが、社会に通訳する日本語力を身につけて卒業してほしいと願っている。

(注)モンゴル国立技術大学では、1996年の日本語通訳・翻訳者養成コース開設時から、たいてい2名の青年海外協力隊員が派遣されている。協力隊員は、モンゴル人教師らが自分たちで日本語学科を運営できるよう、協力している。

「日本語は役に立つか？」

～国際語としての日本語の可能性を探る～
こくさいご にほんご がのうせい さく

記念講演 「日本語と私」
きねんこうえん にほんご わたくし

ドナルド・キーン コロンビア大学名誉教授
だいがくめいよきょうじゆ

1999年12月1日に、国際交流基金日本語国際センター設立10周年を記念して、国際シンポジウム「日本語は役に立つか？」～国際語としての日本語の可能性を探る～が開催されました。本号では、ドナルド・キーン コロンビア大学名誉教授による記念講演の内容を要約して紹介します。紙面の都合上、全部をご紹介できず残念ですが、国際交流基金ホームページ (<http://www.jpff.go.jp/j/index.html>) で全文を公開していますので、是非ご覧ください。

なお、本シンポジウムのパネルディスカッションの内容については、次号で紹介する予定です。

日本との出会い

小さいとき、私は日本のことは全然考えていませんでした。日本の子どもだったら、特別に外国のことを知ろうと思わなくても、テレビゲームとか、コンピュータとか、日本語になっている外来語がたくさんありますし、野球を観に行ったら、選手の胸にある動物の名前は外国語で書いてあります。しかし、私の場合はそういうことは全く考えられませんでした。7、8歳のころ、親から子ども向けの百科事典をもらいました。その別冊にフランスとオランダと日本について書かれていましたが、いま頭に残っているのは、太鼓橋に立っている舞妓さん、あるいは「HAIKU (俳句)」という、非常に短い詩歌が日本にあることぐらいです。

私が中学生になったころ、同じクラスに日本人の女の子が入ってきました。それ以前は日本人を見たことは一度もなかったと思います。ところが、私は彼女と話した覚えが全くないのです。日本に興味になかったし、『世界の歴史』の授業でも日本のことはまず登場しませんでした。彼女についてのいちばん鮮やかな思い出は、卒業式のとき、校長先生が日本人の女の子の名前を呼ぶのに名前と名字を逆さまに言ったことです。当時彼女のことをたいへん気の毒に思ったのですが、それから10年か15年あとになって、その意味を知りました。

日本語との出会い

大学1年のときに、偶然、中国人と親しくなりました。彼は私に漢字や簡単な中国語を教えてくださいました。私は、中国にも日本にもある共通の文字に深い関心がありました。どうして漢字に魅力を感じたかということ、たぶん私が子どものころに切手を集めていたからだと思います。

新しい切手、変わった形の切手を集めて本に貼るように、私は珍しい漢字を頭の中に貼っていたのです。私は画数の多い複雑な漢字がいちばん好きでした(笑)。

1941(昭和16)年、私は19歳になりました。ある日、ひよんなことから、夏休みに3人で日本語を勉強することになりました。私たちが使った教科書は「さいたノさいたノさくらがさいた」という、日本の小学生が使うものでした。そのあと修身の教科書も使いました。ほかの2人はだんだん日本語は難しいと思うようになり、最後まで続けて勉強をしていたのは私だけです。

夏が終わって大学に戻ってからも、日本語の勉強は続けようと思いました。当時、外国人が日本語を読めるようになるための新しい教科書ができたばかりでした。日本語をマスターしようと思う人にとっては、この教科書は全く役に立たなかったと思いますが、「さいたノさいたノさくらがさいた」よりは大人向けの内容がありましたから、私たちは勉強を続けたのです。

同じ年、私は日本文化について勉強をしようと思いました。そのとき、私の一生の先生に出会うことになりました。角田柳作先生です。先生は、文学作品や哲学などあらゆることをよくご存じでした。

大学で日本語を勉強しましたら、ますます日本語の難しさがわかるようになりました。例えば中国語と違い、一つの漢字に読み方が幾つもあります。また、敬語の問題もありました。それから、男性語と女性語の違いがあることも意外でした。

日米開戦と海軍日本語学校

同じ年の1941年の12月、たいへん悲しい出来事がありました。開戦です。私は、戦争は人間のあらゆる行為の中でいちばん醜いものだと固く信じていました。しかし、



実際に戦争となると、どうすればいいかということにはなかなか言えませんでした。ちょうどそのころ、『源氏物語』の英訳本を読みまして、実にすばらしいものだと思います。日本にちゃんとした文化があると初めてわかったような気がしました。そして私は、そのころの暗い新聞から『源氏物語』の世界に逃避したのです。

私は、アメリカ海軍の日本語学校に志願して入学できることになりました。毎週6日間、毎日4時間の授業でした。教科書は長沼直兄さんという方が戦前に作ったもので、いちばんいい教科書でした。2時間の読書と1時間の会話、そして最後の1時間は書き取りでした。当時、私たちが覚えたのは旧仮名遣いと本字です。怖い先生が黒板の前に立って、例えば「台湾」などを非常に速く書きます。台湾の本字は実に画数が多いのです。私は画数の多い字が好きでしたからわかりましたが、ほかの人たちは途中でやめました。11か月の勉強で、字紙を使いながら日本語が読めるようになりました。それから、会話がいちおうできるようになりました。また、手紙などを日本語で書けるようになりました。最後のひと月ぐらいで私たちは文語も覚えました。

私たちは11か月の勉強を終えてハワイに派遣されました。ハワイに着いた翌日から翻訳を始めました。しかし、世界にあれほど退屈なものはありません。例えば、もう存在しない日本の部隊のすべての人の名前を解説しなければならぬのです。そんなある日、私は小さい手帳を見つめました。日本人の兵隊がつけていた日記や手紙です。私は日本人が戦争を本当にどう思っているのかを知ることができました。変な言い方ですが、私の最初の日本の友だちはみんな死んだ人ばかりでした。私にとって忘れられない体験でした。

戦後のこと

戦後になりますと、戦時中に日本語を覚えた若い人たちは、日本語は役に立たないということでほとんど全部やめました。しかし、私はいちばん若かったし、ほかに仕事はありませんでしたから、いろいろ考えて、日本語でやろうと決心をいたしました。私の一生の決意の中でこれがいちばん重要でした。

私はまずコロンビア大学で勉強し、また角田先生の下で勉強して、1年間、ハーバード大学に留学しました。そのあと英国のケンブリッジ大学に就職しました。当時のケンブリッジ大学の日本語教育は非常に変わっていました。日本語をひとつも知らない若い英国人が、最初に日本語として読んだのが『古今集』の序です(笑)『古

今集』の序は難しいのではないかと思っていましたが、冷静に考えると、今日の朝日新聞よりもはるかに読みやすいのです。まず漢字の数が少ない。また、口語を知らない人にとっては文語のほうがやさしいのです。文法ははっきりしているし、例外はほとんどありません。それに語彙が非常に少ない。そういうことで日本語をひとつも知らない学生でも、「やまとうたは、人の心を種として……」とか、そういう言葉を覚えたわけです。私は会話の時間を頼まれたのですが、会話は本当に傑作でした。学生たちが知っているのは、10世紀の紀貫之の日本語です。そういう会話ができるのは意外でした。

日本語の美しさ

私はコロンビア大学の大学院に戻ったときに、角田先生の下で勉強をしたと申しましたが、戦争が終わってから私のような若い人が大学に戻りました。大変な知識欲がありました。そして、私はますます日本文学に魅力を感じるようになったのです。平安朝の文学として、『源氏物語』の一部分を読みました。私は日本語なら何でも読める自信はありましたが、『源氏物語』となるととても難しい。しかし、その美しさ、その文学のよさは十分に認められました。そして私は、日本語そのものの音とが、音楽的な面に初めて気がついたのです。こういうことがありました。仏教文学の講座のときに『徒然草』をやりにして、あまりにも文章が美しいので、日本語がひとつもわからない人にも読んで聞かせたのです。「あだし野の露消ゆる時なく、鳥部山の煙立ち去らでのみ住み果つる習ひならば、いかにものあはれもなからん。世は定めなきこそいみじけれ。」私は自分で美しいと思っていましたから、仮に日本語がわからなくても、その美しさを感じるはずだと確信していました。言葉の音楽性を無視してはいけません。

日本留学

1953年、いよいよ夢がかなって日本に留学できることになり、すばらしい2年間を京都で過ごすことができました。でも困ったのが関西弁です。私が覚えた日本語に関西弁はありませんでしたが、ときどき、何を言っているのかなと思うことがありました。また、私が覚えた日本語は、どちらかというと大正時代の日本語ですから、「乗合自動車はどこから出ますか」と聞いて、「えっ？

あ、バスのことですか」と言われたことがあります。笑われたのはそれだけではありませんが、私は日本語をしゃべっていたので、一生の友だちになれる、貴重な人が何人もできました。日本語を話すことは、友だちの作り方の一つです。

幸運なことに、私の下宿には、あとで文部大臣になった永井道雄さんが泊っていました。彼とは毎晩話して非常に勉強になりました。例えば私が下宿に入ったときに、そこの奥さんに「何新聞を取りますか」と聞かれて、「新聞のような俗悪なものは読みません」と言ったのですが、笑入、永井さんのお陰で私は新聞を読むようになりました。新聞だけではなく雑誌などにも興味を持つようになりましたし、永井さんと一緒に選挙の演説を聴きに行ったりして、生きた日本を知ようになりました。それは私にとってきわめて貴重なことでした。

私は京都にいた間、芭蕉の研究をやるのがいちばんの目的でした。しかし、永井さんから毎日聞く話で、もっと根本的なことをやったほうがいいと思い、「日本文学撰集」を編集することにしました。それはいま、日本語を読めない外国人のための2冊本になっております。自分の話で恐縮ですが、「あの文学撰集を読むことによつて、初めて日本に文学があることを知りました」とか、「私も日本文学の研究をやるうと決心しました」とか、そういう声を何回も聞いたことがあります。これも私の日本語が役に立つことになったと思えます。

ケンブリッジにいたころは、現代文学は学問ではないという非常に強い姿勢がありました。私自身も、文学は古典に限ると思っていました。しかし日本にいた間に、そうではないと感じるようになりました。世界に日本のことを紹介したい、日本のことをより正しく見直してもらいたい、そういう気持ちが非常に強くなったのです。

日本語と私

いまでも私は毎日、何か新しい言葉を覚えていきますし、日本文化について新しい知識を得ることがあります。40何年前から日本語を使っていますから、私の中では日本語も深いところに入っていて、英語では言いえないような言葉もあります。たとえば、「もったいない」「たのもし」「ありがたい」「浅ましい」などです。話の中で私はそういう言葉を自然に使っていますが、英訳はできません。

日本文化全体が宝庫です。中にはいろいろな宝物が入っている。その扉を開けるのは日本語です。扉を開いて入ったらいろいろな宝物を見つかけられますけれども、

扉の前に立っているだけでは中にどんなものが入っているかわかりません。

私が翻訳する場合、日本語と英語をどういうふうに使ったら、より正しい、より原文に近い翻訳ができるかということがあります。場合によっては非常に難しい仕事です。例えば、私は三島由紀夫さんの『宴のあと』の英訳をやりましたが、その小説の中で、一流の料亭の女将さんがお客さんたちと話す場面があります。そのお客さんたちはみな偉い政治家や事業家ばかりです。そういう人に対しては無礼な冗談を言ってもいいのです。そういう人たちは自信があるから、無礼な冗談を言われても傷を受けることはありません。問題は、「無礼」をどう英訳したらいいかということです。辞書を見ましたら、「rude」「impolite」「discourteous」「disrespectful」「unceremonious」、全部出ていました。しかし私は、そういう言葉ではない、別の言葉があると本能的に思いました。翻訳が完成したあと、私はカンボジアのアンコールワットを見に行きました。ちょうど夕焼けで、全体がオレンジ色になりました。何とも言いえないすばらしい光景です。そのときに「uncomplimentary」という形容詞が浮かんだのです。それは私が探していた英語でした。

日本語は役に立ちますか？

私自身は一種の宣教師です。昔の宣教師は外国の宗教を日本に広めましたが、私は逆のことをやっています。外国で日本文学や日本文化を広めているつもりです。私は現在、77歳になりました。しかし、私はまだやるべきことがいっぱいあります。それは日本研究でなければできないことです。何よりもそれは、日本語を覚えたことによるものだと思っています。そういうことで、私に「日本語は役に立ちますか」という質問がありましたら、その返事はわかりきっております。

ドナルド・キーン氏 略歴



1922年ニューヨーク生まれ。コロンビア大学で比較文学を専攻するかわら日本語と中国語を学ぶ。第二次世界大戦中は海軍語学学校を経て情報関係の業務につき、戦後、コロンビア大学大学院に復学、日本文学研究の道に入る。ケンブリッジ大学で博士課程を修了、引き続き教鞭を執る一方、1953年から2年間、京都大学に留学。コロンビア大学教授を経て、1988年には同大学最高称号であるユニヴァーシティ・プロフェッサーに任命された。1992年に退官、同大学名誉教授となり現在に至る。毎年1年の半分を日本で過ごし、研究分野は日本文学にとどまらず、歴史・文化等多方面にわたっている。1975年勲三等旭日中綬章、1983年国際交流基金賞を受賞。著書に『日本文学の歴史』(全18巻)等多数。



写真で見る
日本人の生活

「着物」

きもの

このコーナーでは、国際交流基金日本語国際センターが発行している、日本語教育用「写真パネルバンク」を使って、初中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案していきます。また、文型、単語、漢字は、初級の学習者でも読めるようにやさしいものを使っています。今回は日本の伝統的な衣類である着物について取り上げます。

日本人はいつ着物を着るの？

にほんじん きもの

日本の伝統的な衣類は着物です（写真）。しかし、今の日本人はふつう洋服を着ています。町で着物を着ている人はあまりいません。



結婚式に出席する

けつこんしき しゅつせき

昔から、特別なお祝いの日、いちばんきれいな着物を着ました。今の日本人が着物を着るのも、特別なときが多いです。例えば、家族や友達の結婚式（写真）、大学などの卒業式に出席するときです。

七五三・成人式

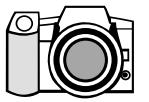
しちごさん せいじんしき

七五三（写真）や成人式²のときにも多くの人（ひと）が着物を着ます。

また、お正月（しょうがつ）に着物を着る人もいます。お正月（しょうがつ）は一年（いちねん）の中でいちばん大切な日（ひ）です。

（¹ 3歳（さい）、5歳（さい）、7歳（さい）のお祝い（いわい）。² 20歳（さい）のお祝い（いわい））





浴衣は？

ゆかた



夏祭りに行く

なつまつい

浴衣は木綿で作った着物
 です。お風呂に入った後や、
 夏に着ます。最近、夏祭り
 や花火を見に行くときに、
 浴衣を着る若い女の人が多い
 くなりました(写真)。



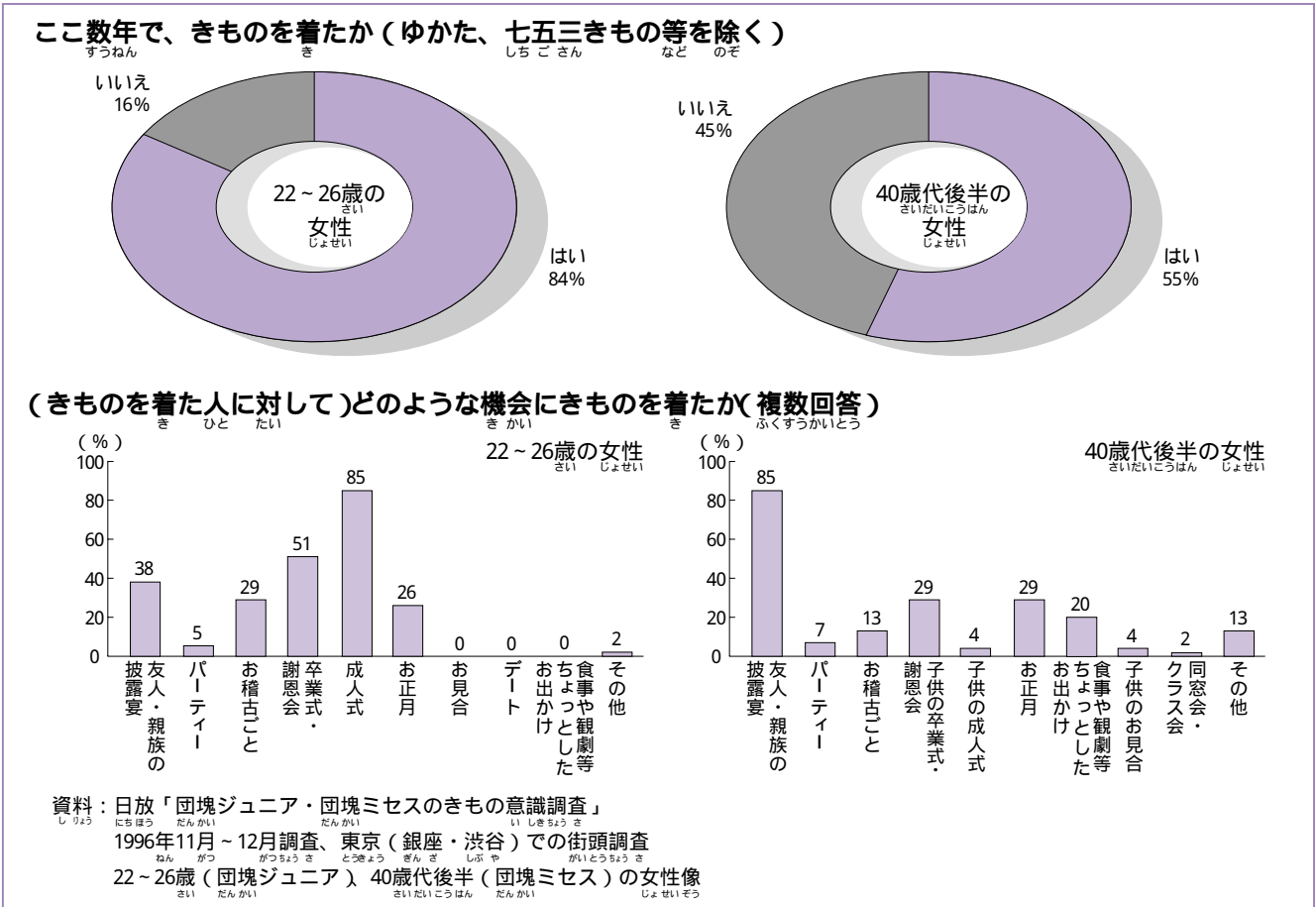
旅館に泊まる

りょかん

旅館に泊まる時、浴衣を着ます(写真)。
 ぶつう旅館には、浴衣が用意してあります。



そのほかにも、茶道や華道など、伝統的な芸能に関
 係のある人は、よく着物を着ます。歌舞伎の俳優や相
 撲の力士など、着物をよく着る職業の人もあります。



日本語教育のための文法研究

大阪府立大学教授 野田 尚史

このコーナーでは、これから研究を目指す海外の日本語の先生方のために、日本語学・日本語教育の研究について情報をおとどけています。今回のテーマは日本語教育のための文法研究です。

教育のための研究と研究のための研究

日本語教育のための文法研究には、二つのものがあります。「教育のための研究」と「研究のための研究」です。

「教育のための研究」は、授業のときに文法の説明をうまくおこなうとか、学習者の質問にわかりやすく答えるというような目的でおこなう日常的な研究です。

「研究のための研究」は、学会などで研究発表をしたり、学会誌などに載せる論文を書いたりするための、特別な研究です。

教育活動から生まれる文法研究

教育のための研究と研究のための研究は、連動しているほうがよいと思います。教育のための研究は、研究のための研究に発展する方がよいでしょうし、研究のための研究は、教育活動に役立つものであるのが理想的です。

最近、日本語の文法研究が進み、品詞の分類とか、「は」と「が」の使いわけ全体というような、大きなテーマでは、新しい研究ができなくなってきています。そういう大きな研究ではなく、教育活動の中で見つけた、小さなテーマで、実証的な研究をするのがよいと思います。

ここでは、教育活動の中からどのようにして研究テーマを見つけたらいいのかを、具体的な例をあげて説明していきましょう。とくに、論文を書くためには、ほかの人が気づいていない、おもしろいテーマを見つけられるかどうか重要です。ほんとうにおもしろいテーマを見つけられれば、もう論文の半分ができたようなものです。

教科書から問題点を見つける

日本語の教科書をよく見ていくと、文法の扱い方がうまくいっていないものが見つかります。そのような小さな問題点から始めてみるのもよいと思います。

私が日本語の教科書で見つけた問題点の例の一つあげ

てみましょう。

ある教科書では、使役受動形の作り方について、次の(1)のような文法説明があり、(2)のような例文があがっています。

- (1) 使役形に、受動の語尾「-rareru」をつける
- (2) 田中さんが本を買わせられる。

そして、練習では、次の(3)のような例があがっていません。

- (3) 先生は私を待たせます。

私は先生に待たされました。

(1)の文法説明と(3)の例を見て、おかしいと思いませんか？ (1)の文法説明のとおりに使役受動形を作ると、(3)は「待たされました」ではなく、「待たせられました」になるはずですが。

このような問題点を出発点にして、使役受動形として、実際にはどのような形が使われているのかを調査してみるのもよいでしょう。話しことばと書きことばによる違いや、文章のジャンルによる違い、時代による違いなどがわかれば、さらにおもしろい研究になるはずですが。

学習者の質問から問題点を見つける

学習者の質問の中には、日本語の文法を深く考えるきっかけになるようなものがあります。

私は、初級のクラスで受動文を教えているときに、「受動文の作り方はわかったが、受動文というのはどんなときに使うのか？」という質問を受けたことがあります。

これは、かなりむずかしい質問です。次の(4)と(5)は同じ事態を表す能動文と受動文ですが、日本語では、受動文の(5)のほうが自然な場合が多いでしょう。

- (4) 受付の人は私に住所と名前を聞きました。
- (5) 私は受付の人に住所と名前を聞かれました。

日本語では、「私」が主語になろうとする傾向が強い

ので、(5)のほう好まれるのでしょうか、このような傾向は言語によって違います。ですから、これは、日本語とほかの言語との対照研究のテーマにもなるでしょう。

また、受動文は、次の(6)のように、複文の従属節の主語と主文の主語を一致させるために使われたり、続いている文と文の主語を一致させるために使われることもあります。

(6) 私は住所と名前を聞かれたので、答えました。

このような研究は、複文や、談話・テキストの研究に発展していく可能性があります。

誤用例から問題点を見つける

教育活動の中で文法研究のテーマを見つけるのにいちばんよい方法は、学習者の誤用例を見ることでしょう。

たとえば、日本語や日本文学を専攻している大学院生のような人でも、次の(7)のような誤用が見られます。

(7) 夏目漱石のイギリス留学は、その後の彼の文学作品にどんな影響を与えましたか。私は、この問題について考えてみたいと思います。

(7)の最初の文の「与えましたか」は「与えたか」にしないで不自然です。「です・ます」を使って話をするときは、全部の文を「です・ます」で統一しなければならないと言われることが多いのですが、このように「です・ます」にしてはいけない文もあります。このようなことは、誤用例を見なければ、なかなか気がつきません。

誤用例は自分で見つけるのがいちばんいいのですが、たくさんの誤用例を調べたいときには、たとえば、インターネットの次のサイトにある「寺村誤用データ」や「日本語学習者の作文コーパス」を見てください。

<http://cookie.lang.nagoya-u.ac.jp/pub/>

日本語の精読から問題点を見つける

中級や上級の授業で、新聞や小説を読んだり、テレビやラジオの番組を聞いたりするときに、一つ一つの文の構造や機能をしっかり見ていくと、ふだんは気がつかない文法の問題が見つかることがあります。

たとえば、次の(8)の「電話で話すほうが」は主語だとは言えません。主語は「私は」だからです。

(8) 私は、面と向かって話すより電話で話すほうがうまく話せる。

これは、「電話で話す」とのような仮定条件節が、「面と向かって話す」と比較されて、「電話で話すほうが」になったものだと考えられます。

このように、「が」のような簡単な助詞でも、詳しく

見ていくと、研究に発展しそうなテーマが見つかることがあります。

研究を発表したり、論文にまとめたりする

研究を学会などで発表したり、論文として学会誌などに発表するとき大事なことが二つあります。

一つは、研究発表らしい研究発表にしたり、論文らしい論文にすることです。そのためには、研究発表を聞いたり、最近の論文をよく読んで研究することが必要です。

もう一つは、内容が、これまでだれも発表していない、オリジナルなものになっていることです。それを知るためには、できるだけ新しい情報を集めることが必要です。

日本の大学図書館などに収蔵されている本の検索は、インターネットの次のサイト(学術情報センターのNACSIS Webcat)が役に立つでしょう。

<http://webcat.nacsis.ac.jp/>

日本語関係の本の検索と購入は、次のサイト(凡人社オンラインショップ)が便利です。

<http://www.alc.co.jp/bos/>

論文については、1年に1冊発行される、国立国語研究所(編)『国語年鑑』(1995年版までは秀英出版、1996年版より大日本図書)を調べるのがいちばん確実です。

次のサイト(国立国語研究所)には、『国語年鑑』の1985年版までの論文データなどがあります。

<http://www.kokken.go.jp/>

これから、インターネットで公開されるデータはさらに増えていくと思います。いろいろ探してみてください。

基本的な参考文献

- 文法の考え方を学ぶには
野田尚史『はじめての人の日本語文法』くろしお出版、1991
- 日本語の文法全般について調べるには
益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法 改訂版』くろしお出版、1992
- 日本語文法の主要なテーマについて知るには
北原保雄(編)『講座日本語と日本語教育4 日本語の文法・文体(上)』明治書院、1989
- 誤用分析を考えるには
明治書院企画編集部(編)『日本語誤用分析』、『続日本語誤用分析』明治書院、1997
- 日本語学の論文の書き方を知るには
宮地裕(他)(編)『ハンドブック 論文・レポートの書き方』明治書院、1997

* 今号からこのコーナーの名前を「日本語・日本語教育を研究する」に変更いたしました。



次に、学生をA、Bに分け、それぞれに次の役割カードを配ります。カードは学生の母語で書いてもいいです。

Aへのカード：

あなたはこれから仕事で札幌（大阪、鹿児島）へ行きます。かさ、コートなど、何を持っていったらいいか聞いてください。

（Aへのカードは、札幌・大阪・鹿児島のそれぞれを書いた3種類、用意する。）

Bへのカード：

札幌、大阪、鹿児島に行く人に、その場所の天気を教えてください。また、持っていったほうがいいものを教えてあげてください。
例：寒い コート、雨 かさ、暑い ぼうし...

A、Bでペア（二人組）になり、会話例1のように会話をします。

会話例1

A：Bさん、ちょっとすみません。私はこれから札幌へ行くんですが。
B：あ、札幌ですか。札幌は、今寒いですよ。2度です。そして晴れています。
A：かさを持って行ったほうがいいですか。
B：かさを持って行かなくてもいいでしょう。でも、コートを持って行ったほうがいいです。
A：どうもありがとうございます。
B：どういたしまして。

この活動の応用例として、人数の少ないクラスでは、クラス全員ではなくBになった学生だけにテープを聞かせて会話をさせることもできるでしょう。

●活動例2 聞いた内容と文を合わせる（「聞く練習」+「読む練習」）

テープを聞くときに、文を読む活動を同時に行わせることもできます。

『教科書を作ろう れんしゅう編』12-7「有名な所」の会話(1)(2)を使った例です。

【モデルテキスト会話(1)】

教師は授業の前にタスクシートを作ります。その時、会話(1)(2)の中でポイントになる情報が含まれている文を

選んで、答えを書く表を作ります。（タスクシート2）

授業では、テープを聞かせる前に、学生がタスクシートをよく読むように言います。

表が完成したら、もう一度テープを聞いて答えあわせをします。テープの内容が教科書などに書かれていたら、それを読んで答えあわせをすることもできます。

この例では会話のテープを使いましたが、ニュースや雑誌の記事など、書かれた文章でも、それを録音したテープがあれば同じような活動ができます。タスクシートも表をうめるタイプだけではなく、物語を聞いて、文の順番をならべかえるタイプなどもできます。

タスクシート2

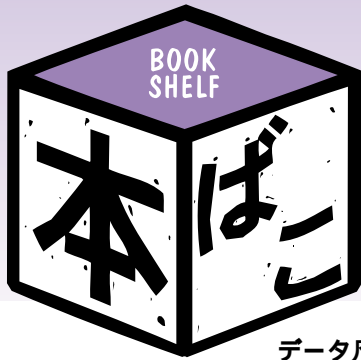
- a ~ e を読んでください。
- テープを聞いて例のように下の表に書いてください。
- (1)(2)はどこか考えてください。

- 5時間ぐらいいあるきました。
- こんでいました。
- 日本でいちばん高い山です。
- ミッキーマウスといっしょにしゃしんをとることが出来ます。
- 上にはゆきがありました。

		どこですか？
(1)	(例) a .	
(2)		

参考文献

1. 村野良子・谷道まや（1989）『絵とタスクで学ぶにほんご』 凡人社
2. Underwood, M. (1989) Teaching Listening Longman
3. 国際交流基金日本語国際センター（1999）『教科書を作ろう 練習編』



「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、海外の先生にとって使いやすい教材「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っている」と便利な図書・資料などを取り上げます。

- データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

確かな基礎日本語力を養成する

『実力日本語(上) - 豊かな語彙・表現力をめざして - 』



データ

1 姫野昌子、田山のり子、柏崎雅世
著、東京外国語大学留学生日本語教育センター編 発行：アルク(〒168
8611 東京都杉並区永福2 54 12 /
TEL .03 3323 5514 FAX .03 3323
1001) 発売：凡人社(〒102 0093 東
京都千代田区平河町1 3 13 菱進平
河町ビル1F / TEL .03 3263 3959
FAX .03 3470 2129) 3 1999年7月
10日 4 4 89358 437 5 A 4 判・182
ページ 6 1 995円

大学進学希望者のための教材

この教材は、将来、大学・大学院などで研究を進めていこうとする学習者が、できるだけ短期間(300時間~500時間)で、日本語の基礎を身につけられるように作られたものです。全体は上・下2冊のシリーズに分かれていて、今回出版さ

れた上巻では、日本語能力試験4級レベルの文法事項にもとづき、文型、漢字、語彙・表現が勉強できるようになっています。

文型を覚える・語彙を増やす

この教材では、文型・文法項目が全部で30課に分かれて出されています。各課は、「文型例文」「文型練習」「基礎会話」「発音練習」「外来語」からなっています。「文型例文」では、その課の文法項目が簡単な例文で示してあります。「文型練習」では、文型の口頭練習をしながら語彙が増やせるようになっています。そして「基礎会話」では、実際の場面での使い方を練習することができます。また、「発音練習」ではむずかしい発音やアクセントの練習、「外来語」ではカタカナ言葉と表記の練習があります。

「読み物」で理解を確認

巻末には、12の「読み物」(各半ページ

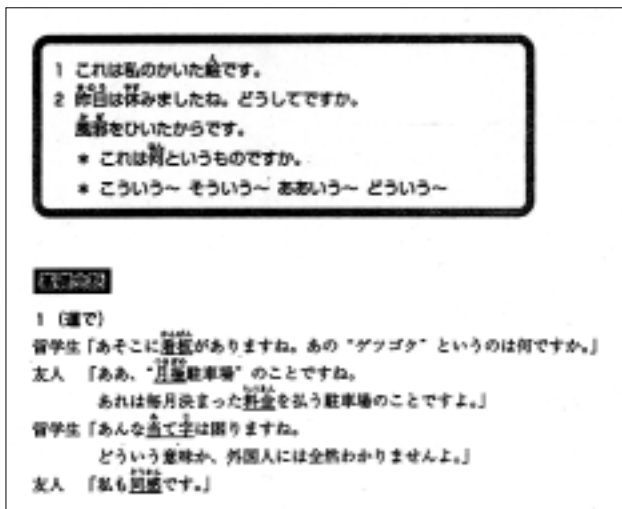
程度)がついています。テーマは「七五三」「未来の予測」など、日本事情や文化、自然科学に関するものです。内容についての質問もありますから、各課の学習と合わせて読めば、文型の理解を実際の文章で確かめることができます。

また、「休憩タイム」というコーナーがところどころにあり、日本語の歌、ことわざ、クイズ、広告文などが紹介されています。このコーナーでは、実際の日本語にふれて楽しむことができるでしょう。

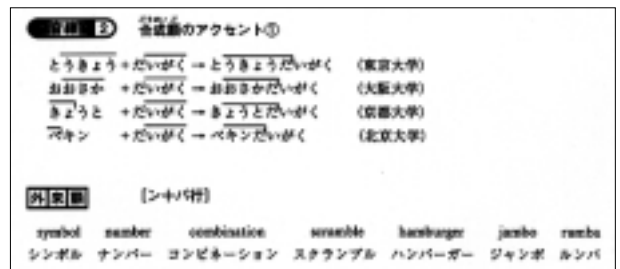
付属教材について

この教材には音声テープ(別売り)があります。また、付属教材として『単語・文法解説書(中国語版)』、『問題集』が出ています。

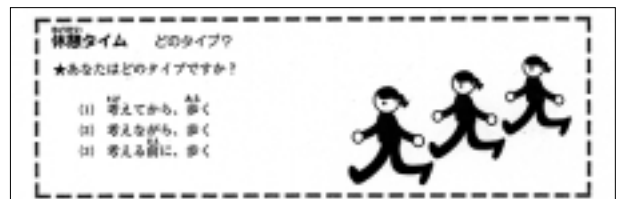
なお、『実力日本語(下)』(日本語能力試験3級レベル)は1月下旬に発売予定です。



P.120 「文型例文」「基礎会話」



P.110 「発音練習」「外来語」



P.139 「休憩タイム」

『 JAPANESE FOR BUSY PEOPLE : THE VIDEO 』



データ

■講談社インターナショナル著、国際
日本語普及協会(AJALT)編 講談
社インターナショナル(〒112 8652 東
京都文京区音羽1 17 14 / TEL .03
3944 6493 FAX .03 3944 6394) 編
1999年 1巻 NTSC4 7700 2188 7
PAL4 7700 2396 0 2巻 NTSC4
7700 2189 5 PAL4 7700 2397 9
3巻 NTSC4 7700 2190 9 PAL
4 7700 2398 7 5各巻VHSテープ
(NTSC・PAL)50分×2巻 各9,975
円 各巻ブックレット付(32ページ)

JAPANESE FOR BUSY PEOPLEにもとづくビデオ教材

これは日常の基礎会話に必要な基本文型と表現を学ぶための成人用のビデオ教材です。この教材の中心となっているのは、アメリカから日本に転勤してきたカーペンターというビジネスマンとその家族が登場するドラマです。

ドラマはカーペンター一家が日本に来たところから始まります。この家族のたちが職場や日常生活のいろいろな場面で日本人と出会い、少しずつ日本での生活に慣れるとともに、同僚や友人との人間関係を深めていきます。このビデオ教材は、このようなドラマを通して、学習者が日本の生活について学び、同時に、場面に応じた適切な日本語を自然に身に付けることをねらっています。

このビデオ教材は、JAPANESE FOR BUSY PEOPLEという同じ名前の一般成人向けの印刷教材にもとづいて作られています。このビデオ教材は、ドラマを中心に「エピソード」と呼ばれるユニットで構成されていますが、各「エピソード」に出る新しい文型は、印刷教材

のJAPANESE FOR BUSY PEOPLEの各課で取りあげている文型と同じです。しかし、会話の一つ一つが短く、単純で覚えやすくなっている点や、登場人物の名前など、印刷教材の会話とは違った点があります。

ドラマ、解説、アニメーションの3部構成

I II IIIの各巻とも50分のビデオ2本からなり、それぞれ21、18、20の「エピソード」が収められています。

各「エピソード」は「ドラマシリーズ」、「スタジオ・トーク」、「CGアニメーション」の3部で構成され、各「エピソード」の長さは5分程度です。

「ドラマシリーズ」は会話が提示される部分です。「スタジオ・トーク」は、英語による文法の要点的簡単な説明の部分です。ドラマの部分的な再生や文字パネルを使いながら、日本人教師と一人の学習者との軽いおしゃべりを交えて、進められます。「CGアニメーション」では、ビジーさんというキャラクターが登場し、文型の用例や関連文型などが提示されます。このアニメーションには多くの場合、最後にユーモラスな「落ち」があります。

このビデオ教材は、印刷教材のJAPANESE FOR BUSY PEOPLEを使った授業でも、ほかの教材を使った初級授業でも、副教材として使用できます。そのほか、自習用の教材として、あるいは、これから日本へ来ようとしている人が日本語や日本の生活について知るための入門用の教材としても使

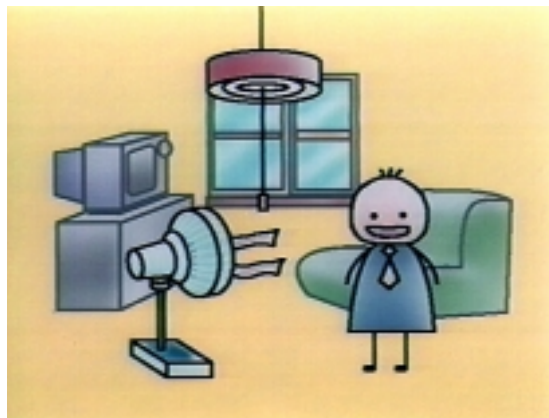
るでしょう。但し、基礎をよりしっかりと学ぶためには、文法解説がより詳しく書かれている印刷教材のJAPANESE FOR BUSY PEOPLEを参考にするといいでしょう。



II EPISODE 5 「スタジオ・トーク」



II EPISODE 5 「ドラマシリーズ」



II EPISODE 5 「CGアニメーション」

p.18~21は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

藤長かおる、向井園子、磯村一弘、木山登茂子、内藤満、高偉建(執筆順)

ふじなが むかいそのこ いそむらかずひろ きやまともこ ないとうみつ こういけん っつづけん

海外日本語教育

かい がい に ほん ご きょう いく

Q & A

このコーナーでは、海外で日本語を教えるときに、教師が直面すると思われる問題をとりあげ、質問に答える形で、読者のみなさんの参考になる情報を提供していきます。

Q

中・上級の読解の授業の進め方について教えてください。

A

35号で「初級の読解」について説明しましたが、中・上級の読解の授業でも、読む前（準備活動）読むんだあと（発展的活動）という流れは同じです。中・上級では、文章の種類やテーマを考え、中心的な情報は何か、学習者は何を讀みとることが必要かを教師がよく考え、課題（タスク）を設定するようにしましょう。

中・上級の読解の特徴

ちゅう じょうきゅう どうがい とくちゅう

中・上級になると、文章の量が増えてくると同時に、説明文、報道文、意見文や論説文など、いろいろな種類の文章を読むことが必要になります。取り上げるテーマも、初級のときの身近なものから一歩進んで、文化、政治・経済、自然科学、社会問題など、幅広い分野のものを学習者の興味に合わせて選んでいくことになります。読み手は、書かれている事実を順をおって理解するだけではなく、筆者の意見や、筆者がそう思うに到った背景を読みとることが重要です。

また、理解したことを学習者同士で話し合うことによって理解を深め、さらに、内容について個人の意見を述べ合う活動を設けることによって、4技能を総合的に伸ばしていくことも大切です。これは、語彙や表現力を伸ばしていくことにつながります。

読む前の活動：どんな導入をするか？

よ まえ かつどう どうにゅう

「読む」前には、①学習者の知識や想像力を刺激して内容について関心を高め、②語彙や表現などでつまづかないように手当をしておくことが大切です。また、この二つをなるべく関連づけて行うと効果的です。次のような方法のいくつかを、読解素材の特徴に合わせて使ってください。

- (1) 読解のテーマに関する話し合い
- (2) タイトルや見出しからの内容の予測
- (3) 文章中の写真や図表からの内容の予測
- (4) 重要語彙（キーワード）の導入
- (5) 内容理解に必要な情報や知識の導入

例1は、「縦書き？横書き？」という見出しの新聞記事を使った読解活動の前の、「話し合い」の例です。

新聞や雑誌の記事では、「見出し」が手がかりになります。

*記事を読む前に

(1) 記事を読む前に次のことについて話し合ってみましょう。

- 日本語を書くとき、「縦書き」の方が好きか、「横書き」の方が好きか。
- どちらの方をよく使うか、どちらが書きやすいか、理由は？
- 日本人は、どんな文を書くときは「縦書き」、どんな文を書くときは「横書き」をすと思うか。
- 「縦書き」「横書き」は読む人にそれぞれどんな印象を与えようと思うか。

例1. 出典：『中・上級者のための速読の日本語』P.110

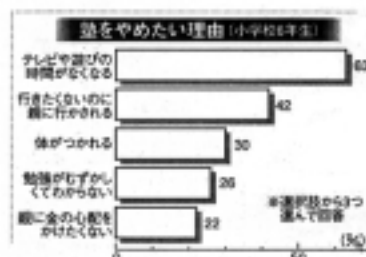
例2は、本誌35号の「新聞・雑誌から見る現代日本」で紹介された記事の見出し部分です。

また新聞によく使われている「写真や図表」も、見出しとともに内容について多くのことを伝えてくれます。例3のグラフから、みなさんはどんな内容の記事を想像しますか。

新聞記事に限らず、読解文でも、タイトルや挿し絵(例4)は、これから読む内容についてたくさんのヒントを与えてくれます。

このように見出しやタイトル、図表や挿絵などを使って、わかること、想像したことを話し合わせ、必要に応じて

通読率は急上昇

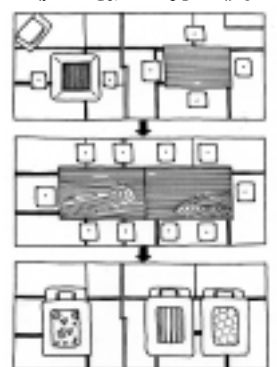


例3. 98年4月25日付 読売新聞 朝刊

例4. 出典：『日本語中級読解入門』P147
挿絵の一部

例2. 99年5月21日付 毎日新聞 朝刊
携帯電話PHS利用者 初めて50%突破
野村総研調査

第26課 「狭くて広い和室」



じてキーワードや背景知識を導入するとよいでしょう。

何を読み取らせるか

なに よ と

読むものの種類やテーマによって、また読み手が何を
知りたいか(例「新聞のテレビ番組を見て夜8時に始
まるドラマを探す」)によって、読み取る情報が違って
きます。また必要な情報を読み取るには、わからない語
彙があっても推測して読みすすみ、全体を把握(スキミ
ング)し、また、必要な情報を探し出して読み取る(ス
キャンニング)という、3つの技能を身につけることが大
切です。

* 市販の教材からいくつかの例を紹介します。

次の文を読んで、下にキーワードを書き取らない。(3分)
Read the following passage and jot down keywords. (3 minutes)

1月8日午後10時ごろ仕事からの帰り道で田中さんは交通事故を起こした。車がスリップして
正面から水にぶつかった。音が降り出したばかりで道がすべりやすくなっていて、
ブレーキがきかなかったそうだ。幸いけがはしなかったが車はめちゃめちゃになってしまった。

- (1) だれが()
(2) いつ()
(3) どこで()
(4) なにをしたか()
(5) なぜそうなったか()
(6) どうなったか()

例5・出典：『中・上級者のための速読の日本語』P.38

例5は、大意把握のための問題です。「だれが」「いつ」「どこで/へ」「なにを/が」する/起こるの部分は、多くの新聞記事に共通する読み取りのポイントです。

次の例6は、「縦書き?横書き?」(例1)の新聞記事
についての問題です。このように、意見文の場合は、主張を読み取ることが中心になります。

*記事を読んで

(3) 記事の全体を読んで、どんな意見があったか話し合ってみましょう。

- a. 「縦書きがいい」と答えた人 = () 人
代表的な意見：
b. 「横書きがいい」と答えた人 = () 人
代表的な意見：
c. 「どちらもいい」と答えた人 = () 人
代表的な意見：

(4) 記者(この記事を書いた人)の意見をまとめましょう。

- a. 「縦書き」について：
b. 「横書き」について：

例6・出典：『中・上級者のための速読の日本語』P.110

読んだあとの活動

よ かつどう

文章中の重要語彙・表現の確認と練習を行うことは、すでにやっていると思います。中・上級の読解では是非取り入れてほしいのは、「あなたならどうするか、どう思うか?」という自分の意見を表現する活動です。

例1~例6では、「日本語を書くとき横書きがいいか、縦書きがいいか」(例1、例6)、「4人家族(子ども2人)で3DKの家を作るなら、和室がほしいか」(例4)、「塾のいいところ、わるいところ」(例3)、「携帯電話は必要か」(例2)など、いろいろなテーマが考えられます。

活動には、2つのグループに分かれて意見を言い合う、役割を決めてロールプレイをする(例「塾に行かせたい母親と行きたくない子どもの会話」)、自分の考えをまとめてスピーチをするなど、いろいろあります。

日常生活で、新聞記事をネタに友達とおしゃべりすることがあるように、話したり書いたりするためにも「読む」ことが必要だということが学習者に伝わるといいと思います。

市販教材について

し はんきょうざい

* 中・上級用の読解教材のうち、いくつかを紹介します。

富岡純子他(1991)『日本語中級読解入門』アルク
三浦昭監修 岡まゆみ著(1998)『中・上級者のための速読の日本語』ジャパタイムズ
伊藤博子他(1992)『「読み」への挑戦』くろしを出版
産能短期大学日本語教育研究室編著(1991)『日本語を楽しく読む本・中級』産能短期大学交際交流センター

* 総合教材的なものとしては次のようなものもあります。

文化外国語専門学校編(1994,1997)『文化中級日本語』1、2 文化外国語専門学校
鎌田修(1998)『中級から上級への日本語』ジャパタイムズ

このコーナーでとりあげてほしいことを教えてください。また意見・感想もお寄せください。

このコーナーの担当者：藤長かおる(日本語国際センター専任講師)

NEWS NEWS NEWS ニュース

1999年度日本語能力試験

昨年12月5日(日)に、1999年度の日本語能力試験が、国際交流基金、(財)日本国際教育協会の共催で実施されました(台湾は(財)交流協会が実施)。

この試験は、日本国内外において、原則として日本語を母語としない人を対象に、習得した日本語の能力を客観的に測定し、その能力を認定することを目的としています。1984年から実施されており、今回で16回目を迎えました。

今回は海外33の国・地域の75都市(パングラデシュ、ボリビアは現地の事情により本年度の実施見送り)、日本国内9都市で実施され、総計196,030人(昨年度比約28.4%増)の応募者がありました。

各級の応募者数については別表のとおりです。

	級別	1999年度 応募者数(人)	1998年度 応募者数(人)	伸び率 前年度比
国 外	1級	32,591	26,520	22.9%
	2級	43,866	32,229	36.1%
	3級	47,289	33,925	39.4%
	4級	34,116	27,075	26.0%
	小計	157,862	119,749	31.8%
国 内	1級	23,416	19,413	20.6%
	2級	7,379	6,418	15.0%
	3級	4,832	4,443	8.8%
	4級	2,541	2,638	-3.7%
	小計	38,168	32,912	16.0%
合 計		196,030	152,661	28.4%

○ 編集部から ○

「外国語(日本語)教育というのは、基本的には外国語(日本語)を通じて行う教育という意味である。もっと厳密にいうと、外国語としての日本語(日本文化も含まれる)を教えることを通じて、人間を育てること、さらにいえば、外国語(日本語)の習得を通じて、自民族優越主義(ethnocentrism)や大国意識(chauvinism)あるいは自民族劣等意識から脱却し、世界的な人間づくりをすることである。

日本語教育は単に日本語という言葉を知習得するだけでなく、それ以上の意義と価値をもっているものなのである。つまり、外国語教育の原点は、人間愛を育て

*この欄にふさわしい情報やニュースがありましたら、下記までお寄せください。

国際交流基金日本語国際センター情報交流課
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

Research and Information Division, The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa, 6-36 Kita-Urawa 5-chome, Urawa-shi, Saitama 336-0002, Japan

なお、2000年度の日本語能力試験は12月10日(日)に実施される予定です。

試験実施の詳細については、7月頃に下記までお問い合わせ下さい。

海外:

国際交流基金関西国際センター試験課
〒598 0093 大阪府泉南郡田尻町

りんくうポート北3 14

TEL: +81 724 90 2603

FAX: +81 724 90 2803

E-Mail: jlpinfo@jpf.go.jp

URL: <http://www.ijjnet.ne.jp/jpf/jlpt/contents/home.html>

国内:

財団法人日本国際教育協会
事業部日本語・統一試験課

〒153 8503 東京都目黒区駒場4 5 29

TEL: +81 3 5454 5215

FAX: +81 3 5454 5235

「日本語教育国別情報ホームページ」の開始について

日本語教育を実施している115の国・地域(1998年海外日本語教育機関調査による)について、それぞれの日本語教育事情をまとめた「日本語教育国別情報」を、2000年3月から日本語国際センターホームページ上で公開します。

(<http://www.jpf.go.jp/j/urawa>)

内容は

- ・日本語教育の実施状況
- ・教科書

・教師会

・日本語教師派遣情報

・学習目的(機関調査結果)

・参考文献一覧

・その他(日本語教育略史、教育制度と外国語教育、ガイドライン・シラバス、評価・試験、教師)

となる予定です。(ただし、「その他」については主要国のみ。)

このホームページは、日本大使館・総領事館、国際協力事業団、国際交流基金の情報を、国際交流基金日本語国際センターがまとめたものです。ぜひご覧ください。

センター元研修生、誘拐され人質となるも無事に解放

昨年8月23日、キルギス共和国において、武装勢力による国際協力事業団の日本人技師拉致事件が発生しました。人質の中には、日本語国際センターの元研修生(92年度長期研修)で、通訳を務めていたオムルベク・ジャナケーエフさんも含まれていましたが、10月25日、4人の日本人とともに、無事に解放されました。

ジャナケーエフさんは、センターでの研修から帰国後、日本キルギス文化センター所長となり、キルギス語日本語辞書の編集を行うなど、両国の文化交流に力を注がれていました。ご無事を心よりお慶びいたします。

『日本語教育通信』第36号

2000年1月発行

発行・編集 国際交流基金
日本語国際センター 情報交流課

〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

The Japan Foundation

Japanese-Language Institute, Urawa

(6-36 Kita-Urawa 5 chome, Urawa-shi,

Saitama 336-0002, Japan)

TEL 048 834 1184 FAX 048 830 1588

E-Mail jfnckt@jpf.go.jp

編集協力

財団法人 国際文化交流推進協会

Assoc. ACE Japan (Japan Association for Cultural Exchange)

© 2000 by The Japan Foundation

ることだといえる。外国の文化を学ぶことが、人間らしさを育てることに寄与するという事実にもっと光をあてるべきである。」(縫部義憲『日本語教育学入門』(創拓社)より)

時々、「なぜ日本語教育を世界中で行う必要があるのか」「自分はなぜ日本語教育関係の仕事をしているのか」と考えることがあります。

上の文章を読んで、その意義が分かったような気がしました。と同時に、自分の仕事の未熟ぶりを自省しました。

2000年代も、どうぞよろしくお願いたします。(情報交流課 田中 伸一)

*編集部では、『日本語教育通信』に対するご意見や皆さんの学校の状況などを書いたお手紙をお待ちしています。

(表紙イラスト: 村井宗二)